

認知症高齢者見守り事業 (認知症・家族の集い「茶話会」)

取り組みの概要

介護者同士が交流できる場づくりをすることにより、介護疲れを癒したり、介護のヒントや生きた情報が得ることができる。また、認知症の相談窓口の職員と接点をもつことにより、認知症の人や家族が、地域で穏やかに暮らし続けられるよう、つながりをもつことができます。

協働の きっかけ

認知症の人と家族の会（全国組織）十勝支部が休止中であり、認知症の家族同士が交流したり相談できるところがありませんでした。
行政と地域包括支援センター(委託)で、介護者交流の場が必要と考えていたところへ、地域交流サロン立ち上げの中心メンバーや介護者の会の代表等から協力したいとの声があったことがきっかけです。

地域福祉課



市民（介護経験者等） 関係機関

行政ならではの発信力

強み

知識や経験が豊富

・地域包括支援センターへの連絡、
会場の手配、周知協力

役割

【市民】・当日スタッフとして運営
【委託先】・相談対応、交流支援

協働の 成果

参加された介護者のアンケート結果では、「同じ立場の人と話せて、心が軽くなった。」「また、明日からの介護を頑張れそうです」などの意見があり、帰り際には優しい表情で帰っていかれる方が多いです。市民同士がお互いの連絡先を交換する場面も見られ、平成23年度からは茶話会を継続的に月1回行うことになりました。介護経験のある市民、地域包括支援センターが中心となり実施しています。

協働のポイント

介護経験者等の協力者の募集や学習、運営、周知面での後方支援・認知症サポーターの活用等について検討が必要

背景(平成22年度まで)

(平成23年度から)

茶話会の企画会議

茶話会の実施
当日の運営

継続しやすい体制づくり
今後へ向けての話し合い

市民：介護経験者等が企画
介護者同士の交流時、傾聴、助言
地域包括支援センター
：「茶話会」のイメージの企画、周知用チラシの作成
関係機関：助言、技術支援



市民：当日スタッフとして運営
地域包括支援センター：
認知症の相談受理、交流支援
行政：委託先への連絡、会場の手配、
周知協力